

令和5年度 江戸川区立小岩第五中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな人 ・知性に富む人 ・心豊かな人 ・勤労を尊ぶ人 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子も育つ親しだい。どの子も育つ指導者しだい。どの子も育つ自分しだい。 ・学校に誇りをもち、食知徳体の向上に努力する生徒。 ・使命感と情熱をもって、職務を遂行する教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>東京都情報教育研究校として、「情報活用能力・情報モラル教育・プログラミング教育」を引き続き推進することができた。また、iPad全員配付に伴い、校内研修の研究主題を「iPadを活用した授業の工夫」とし、授業の工夫・改善に取り組む、基礎学力の向上を図ることができた。</p> <p><課題>素直で真面目な生徒が多いが、自ら考え行動したり、主体的に学習や運動に取り組んだりすることができない生徒、スマホの利用時間が長い生徒も多くなる。そこで、校内研究の研究主題を「豊かな心と健やかな体の育成～岩五リズム(生活・学習・運動)の主体的な学びを通して～」とし、生活リズムを基盤とした学力と体力の向上を目指す。</p>		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	学力向上週間の実施 build-up timeの実施 放課後補習・長期休業中補習の充実 一人一台端末の活用の工夫 長期休業明け確認テストの実施	5教科都平均以上	A	B	○学力向上を図るための取組の充実 ○他機関(学研)と連携した放課後補習、長期休業中の補修の充実 ●都平均以上を達成していない	B	授業に取り組む様子など、まじめに取り組んでいる様子がうかがえる。さらなる学力の向上に期待する。	・学力向上週間における、教員及び生徒の前向きな取組に向かう姿勢への呼びかけ等の工夫 ・build-up timeの充実 ・放課後補習の業者との連携による意識の向上 ・一人一台端末の活用の工夫と利用時のルールの確認、徹底
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	読書ノートの活用 昼休みの開室(年140日) 学校図書館を活用した授業の充実 学校司書と連携した環境整備 朝読書の充実 教員の読書マラソンの実施	年間貸出平均3冊以上 昼休み開室100% 学校図書館を活用した授業各教科年2回	A	B	○昼休み開室100% ○図書館司書と連携した環境整備 ○朝読書の充実 ●教員の読書マラソンが呼びかけでとどまっている ●学校図書館を活用した課題解決学習の充実	B	図書室カウンターや職員室前の新作紹介やテーマの決まった展示がよい。教員の読書に対する意識も上がっている様子である。	・図書委員と図書館司書との連携による図書、読書活動の充実 ・読書マラソンの実施
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・運動意欲や基礎体力の向上に向けた取組の実施・充実	授業内での補助運動の実施 短縄検定の実施 岩五サーキットコースの活用 レクリエーションや体力づくりを目指した部活動の設置	体力テスト都平均以上	B	B	○短縄検定(岩五ギネス)の実施 △体力テスト都平均を超えたのは1学年のみだった ●岩五サーキットコースの活用(今後整備後使用予定)	B	運動会では「短なわマラソン」で全校生徒が3分間一生懸命に跳んでいた。特別支援学級の生徒がグレーなど特に頑張りが見られ、朝のトレーニングの成果が表れているように感じた。	・岩五ギネスによる短縄検定の2回の実施 ・R-1グランプリとして短縄のクラス対抗にしての実施による活性化の継続
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	個別支援指導計画の作成 エンカレッジルームの多様な活用(特支専門員との連携) 通常級と特別支援学級との共同学習、行事における交流 近隣特別支援学校との副籍交流	通常級と特別支援学級との共同学習5教科以上、すべての行事における交流 近隣特別支援学校との副籍交流毎月(学年だより)校内特別支援委員会月2回	B	B	○校内特別支援委員会を隔週で全体で行い、全体がない週は特別支援教室担当教員・SC・SSWで情報交換を行った ○すべての行事における交流 ○SSWの校内配置、及び別室指導員の充実 ●個別支援計画の作成、共有	B	定期的に時間を取り、報告などを行っているとのこと。また、別室指導の方やスクールソーシャルワーカーの充実によって良い結果が得られればと思う。	・不登校別室指導支援員の常時配置により完全な不登校生徒が別室対応につながった。今後、エンカレッジルームの利用法と別室の利用法を上手に兼ね合わせ、より通いやすい体制を整える。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	学校生活アンケート(年3回) 教育相談(年3回) SCとの連携 SBSノートの活用	いじめ発生ゼロ 不登校発生率5%以下	B	B	○学校生活アンケート及び体罰等アンケートの実施。また、実施後の個別相談の実施 ○SBSノートの活用 ○不登校生徒との面談、家庭訪問等かかわりの強化 ●いじめ未然防止における発生件数0及び不登校発生率5%未満の達成	B	個別相談や二者面談、三者面談など教育相談を定期的に行っている。また、不登校の生徒と家庭訪問などで連絡となっている	・アンケート実施とその後の二者面談等による教員と生徒との関係性の向上 ・いじめの未然防止に努めるとともに、早期解決、早期対応、また、複数での対応を徹底する
	＜関係諸機関との連携強化＞ ・生徒の健全育成をねらいとした関係諸機関との連携	児童相談所との連携の強化 スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)、特別支援教室専門員、特別支援教室巡回教員への相談	児相への連絡生徒1人に対して月1回	A	A	○児童相談所との密な連携 ○SSW,SC,特別支援教室専門員、特別支援教室巡回との相談、連携の工夫、充実、強化	B	関係諸機関と連携を取り生徒の健全育成に努めていることが評議員会の話でうかがわれた。	・他機関との情報共有をもとに、困り感のある生徒や親御さんに全教員が親身になってあたれるようになっていく
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	定期的なホームページの更新 学校公開でのアンケートの実施及び改善	1日のアクセス件数目標288件	A	B	○行事を中心に日々の活動もHPに定期的に更新し、毎日の給食の写真及び工程なども更新している	B	林間学校、修学旅行などたくさんの写真が随時更新されている。給食の献立や写真、説明なども工夫されている。	・毎日の給食の更新や学校の様子の配信などで全校生徒数を上回るアクセス数があった。今後も継続を目指す。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	評価項目の見直し 否定的回答が多い項目に対する改善案の策定	すべての項目において肯定的回答80%以上	C	C	●評価項目の見直し及び定期的な評価	B	ホームページの写真を通して子供たちの楽しそうな学校生活の様子が伝わってくる。地域の子供たち、小学校の保護者にも五中の良さが伝わるとよい。	・学校評議員会等時間を工夫してもなかなか多くの人数が集まらなかったが、全員ではなくてもあったときに情報交換などをしていけるように工夫していく。
特色ある教育の展開	＜校内研究の充実＞ ・「岩五リズム(生活リズム・学習リズム・運動リズム)」の構築	生活リズム・・・食育、睡眠時間・スマホ利用時間 学習リズム・・・授業、放課後補習、家庭学習 運動リズム・・・運動週間・運動タイムの設定	スマホ利用時間1日2時間以内 朝食摂取100%	B	B	○校内研究、発表に向けてPDCAサイクルをもとにした研究の充実 ○研究主任を中心とした研究の掘り下げ ●目標値のデータの正確な調査及び浸透	B	岩五リズム確立に向けてのお話をたくさん聴かせていただいた。子供たちのために、先生方が考えてくれていることを感じた。成長につながるとうい。	・発表に向けて教員、生徒、家庭と連携し改善に向けて学び行動できた部分もある。3年計画の3年目の次年度で意識改革がしっかりと根付いて考動できるように引き続き取り組んでいく。
	＜食育の推進＞ ・学校給食を「生きた教材」として活用した知育・徳育・体育の基盤となる食育の推進	食育講演会の実施 食育テーマによる献立 岩五リズム(生活リズム)との連携	食育講話1回 テーマ献立30回	A	A	○食育講話における生徒の意識の変容(生活リズムの意識) ○テーマ献立26回(10月1日現在)	A	給食の情報はホームページからもよく伝わってくる。栄養士さんが栄養バランスだけではなく楽しめる献立を工夫してくれていることが伝わる。	・宇宙一おいしい給食をうたい実践できた。これからも継続していく。 ・コロナ明け給食試食会も実施できて高評価を得られた。
	＜キャリア教育の充実＞ ・自己の徳性や適性に合った進路を選択することができる生徒の育成	キャリアパスポートの充実 進路指導の充実 高校相談会の実施	進路指導の日1回 進路説明会年2回	A	A	○進路指導の日(高校フェスタ・7月)の実施、地域との連携 ○進路説明会の実施・個別相談および三者面談等教育相談の充実	A	コロナ禍を超え、たくさんの保護者や地域の人が参加していた(高校フェスタ)。高校数も多く、PTAの協力もすばらしいと思う。	・高校フェスタやチャレンジ・ザ・ドリムなど、コロナの影響による制限が取れ充実させられた。今後も発展させていきたい。
	＜「学校における働き方改革プラン」 ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	会議の精選 一人一役の徹底による組織の活性化	時間外勤務時間月60時間以内 職員会月1回	C	C	○職員会月1回 ●教員間の報連相の増加に伴う学年会の増加 ●時間外勤務時間60時間以上の教員が複数名	C	いつも遅くまで先生方の対応には感謝しています。働き方改革の点では課題に感じる。	・長時間勤務による体調不良者の増加がみられ、20時までには勤務を終えられるよう呼びかけを増やしているが厳しい状況にある。業務を減らせるよう努力